



令和 7 年度
つながりひろがる
地域づくり事業
成果報告書

安曇野市役所 市民生活部 地域づくり課

TEL 0263-71-2494

MAIL chiikizukuri@city.azumino.nagano.jp

過去の成果報告書はHPから
見ることができます。



目 次

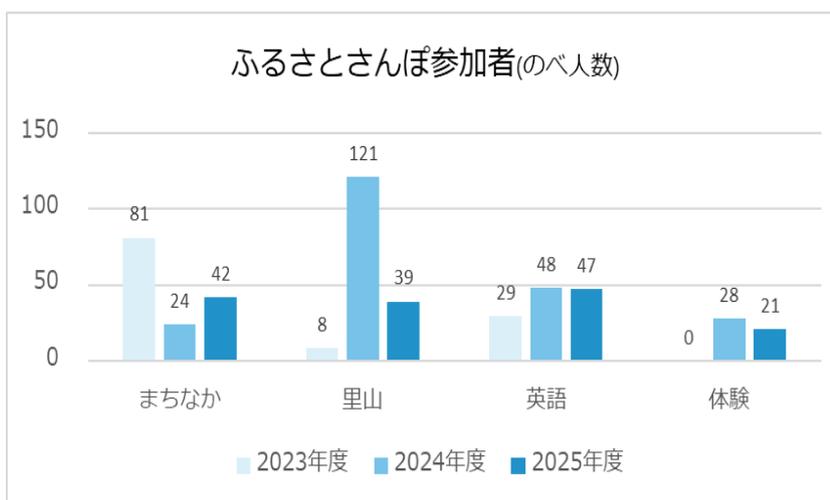
No.	事業名	実施団体名	ページ
1	安曇野案内人倶楽部「ふるさとさんぽ」	安曇野案内人倶楽部	2
2	イエナ式おうち探究塾	ママの働き方応援隊信州中央校	4
3	安曇節推進保存事業	安曇節推進保存連絡協議会	6
4	臼井吉見と安曇野に生きる	臼井吉見文学館友の会	8
5	安曇野歴史サロン	安曇誕生の系譜を探る会	10
6	いのち育む田んぼ暮らしをはじめよう！！	Three tiny seeds	12
7	野良仕事のつどい ノラノワ	ノラノワ	14
8	廃線敷と潮沢の歴史と文化を伝える	ケヤキの道	16
9	一から始める未来の里山づくり、さとやま楽校・里山再生の教室	あづみの樹楽会	18
10	あづみの森であそび隊	あづみの森であそび隊	20
11	安曇野の農家さんを応援 伝統保存食☆料理教室	一般社団法人 笑顔の花	22
12	ききCafé	ききCafé	24
13	ポッチャで安曇野をバリアフリー社会にしよう	つむぐ広場ココクル	26
14	だれでもカフェ	NPO法人アルウィズ	28

事業名 安曇野案内人倶楽部「ふるさとさんぽ」

団体名	安曇野案内人倶楽部		
代表者名	高松 伸幸	構成人数	21名
活動拠点所在地	安曇野市穂高 5971-1		
事業実施総額	380,000 円	補助金額	113,000 円
主な補助金使途	「ふるさとさんぽ」実施の為の案内、配布資料のコピーと消耗品購入		
事業実施日・期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日		
事業概要・成果	<p>ふるさとさんぽと題して安曇野の魅力を再発見していただくツアーを企画。4つのテーマに分け、それぞれ、「まち歩き」「里山（山城探訪）」「英語でガイド」「体験版」を開催した。</p> <p>現在まで14のコース（1月25日現在・あと4コース予定）に149名の方に参加いただき、安曇野の歴史や文化遺産の再認識ができた。</p> <p>どのテーマでもリピーターと新規の参加者がよいバランスで、かつ、円滑なコミュニケーションをはかり、毎回、高い満足度を得られた。</p> <p>「体験版」では、初めての試みとして、子どもたちに向けて、地元の民話を基に、絵本の読み聞かせや語りを行い、現地に歩いて向かい、クイズにも挑戦。安曇野にまつわるストーリーを子どもたちに憶えてもらい、安曇野への愛着を感じてもらいたいと願う。</p> <p>「英語でガイド」は、インバウンド客を対象に、自分が習った範囲の英語でガイドすることを目的としたレッスントツアーであるが、実際は英語に興味がある一般の大人たちに人気であった。リピーターも増えている。今年度の目標であった、地元在住の外国人の参加もあり、安曇野を知りたい／知ってもらいたいという互いのニーズが合致し、外国人、日本人、双方の参加者が楽しく交流できた。次年度にもつながるよう今後も積極的に声がけしていきたいと考える。</p>		
今後の展開	<p>活動の質・量とものアップを目指す。まずは会員の知識向上やガイドスキルのレベルを上げるために、今年度末に研修会を予定している。</p> <p>どのツアーも集客にばらつきが見られるので、有効な告知方法を考えていく。「英語でガイド」の更なる充実については、他団体（AIN など）と協力し、地元在住外国人に告知していきたい。</p>		

2025年度 実施報告

2023年～2025年 参加者比較



参加人数 2023年 118名・2024年 221名・2025年 149名
 2025年度は1月31日現在 あと4コースを予定
 里山以外は昨年度より多くなる見込み

ふるさとさんぽ

各コースの様子



「英語版天蚕（やまこ）」あづみの公園で見学後木陰でレッスン



「まちなか」堀金地区 顔かけ道祖神を見学



「体験版泉小太郎」公民館で絵本を読んで穂高神社の像へ



「里山」山城探訪ツアー 虚空蔵山山頂にて



「英語版りんご」りんご農家の方に話を聞いてレッスン・休憩風景



「体験版森林浴」鳥川溪谷にて

事業名 イエナ式おうち探求塾

団体名	ママの働き方応援隊 信州中央校		
代表者名	藤原 久美子	構成人数	21人
活動拠点所在地	長野県安曇野市堀金三田		
事業実施総額	454500円	補助金額	300000円
主な補助金使途	講師代 会場費 印刷代 材料費など		
事業実施日・期間	令和7年5月1日から令和8年3月31日		
事業概要・成果	<p>昨年までの料理教室に加えて、お金の勉強講座、健康にまつわる講座、体を動かす講座など様々な提案をさせていただきました。</p> <p>途中、インフルエンザなどで日程が変更になったり、皆様への発信が大変なこともありましたが、月に1度のペースで皆様に交流の場を提供することができました。</p> <p>今年度は、去年の料理だけに限らず、今注目されている腸活や、体を動かすヨガ、子育て世代からリクエストのあった家計見直しや投資、ライフプラン等のお話会なども取り入れ様々な内容を取り入れることで幅広い年代の方、また、初めての方にも参加していただくことができました。</p> <p>このことにより、今までは自宅にこもりがちだったけど、外の子育てコミュニティに参加するようになったとか、お知らせが来るのを楽しみにしていた、など感想をいただきました。</p> <p>これからも地域の様々な方が、生活に彩を持って過ごせるような場を提供していけたらと思います。</p>		
今後の展開	<p>より広い世代の方に参加していただけるように告知をしていくこと、また市民の皆様が学んでみたい、活動してみたいという内容を提供しながら、多くの方のリフレッシュ、新たなコミュニティの場を提供していけたらと思います。</p>		

5月27日

季節のランチ会

～たんぱく質たっぷりメニュー～

大豆、豆腐など高たんぱくな材料を
使った料理を学びました



6月26日

夏に負けない体を作ろう

～ヨガでしっかりストレッチ～

中島水姫先生に普段自宅でもできる
ヨガを教えていただきました



7月8日

腸活セミナー①

腸から整える家族の食卓

Instagram でも人気の松山まき先生
による腸活セミナー



8月28日

～小中学生

企画、調理、ふるまいまで

みんなでメニューを考えて

オムライス ピザトースト

フルーツパフェ を作りお迎えにき
た保護者の方と食べました



9月28日

親子でお金の勉強会

～子供と一緒に FP の栗原かおりさ
んにお金の話を聞きお店屋さんを
やりながら実感

10月30日

季節のランチ会

～時短クック ハロウィン～

11/21 季節のランチ会

～私も家族も健康に糎クック♪

12/20

腸活セミナー②～イライラモヤモヤ
が減る？腸は第2の脳

Instagram でも人気の松山まき先生
による腸活セミナー



1月26日

～季節のランチ忙しいときにはこ
れ! 時短クック

事業名 安曇節推進保存事業

団体名	安曇節推進保存連絡協議会		
代表者名	佐伯 治海	構成人数	19名
活動拠点所在地	安曇野市穂高		
事業実施総額	139,000円	補助金額	104,000円
主な補助金使途	発表会謝礼・事務用品・チラシ作成・賞状作成・コピー印刷代・通信費		
事業実施日・期間	2025年4月01日～2026年2月15日		
事業目的 概要 成果	<p>1, 事業の目的 優れた新作安曇節歌詞の募集・発表・保存・安曇節顕彰のための諸事業を行い、地域の宝である安曇節を保存・発展させ、末永く後世に伝えて行くことを目的として、活動を進めてきた。</p> <p>2, 事業概要 ①4月19日(土) 穂高会館で連絡協議会総会を開催、1年の活動を開始。 ②6月16日から7月25日の期間で新作歌詞を募集。市内の公民館や公共施設・国営公園等にチラシを配置。市内小中学校には、安曇野市校長会の場で、児童・生徒への歌詞募集のお願いをした。 ③一般部門230句、学生部門272句の歌詞応募があり、選考の結果、各部門10句を入選句として選定した。 ④10月5日(日) 国営アルプスあづみの公園を会場に新作歌詞入選者の発表会を実施。入選者の表彰・新作歌詞を歌と踊りで披露・アトラクションなど実施し、今年の活動の締め括りとした。 ⑤市民活動フェスタ、穂高納涼祭、安曇野市芸能フェスティバルの3会場でのステージ発表に参加、安曇節の歌と踊りを披露した。 ⑥新作歌詞20句を色紙にしたものを、10月穂高文化祭・12月市役所東ロビー・1月国営公園の三か所に展示、市民の皆さんに見ていただいた。 ⑦今年度末に、安曇節カルタを作成できた。学校や公民館・図書館、福祉施設等に、活用していくことを考えている。</p> <p>3, 成果 ①応募歌詞数は、一般の部は昨年よりわずかに上回り、学生部門は、ほぼ昨年並み。また、安曇野市市制施行20周年にかかわる歌詞も入選作に入った。 ②上記⑤のステージ発表と国営公園での発表、市内3か所での色紙展示等を通して、昨年度を大幅に上回る市民の皆様が安曇節をアピールすることができた。</p>		
今後の展開	<p>・3年間の活動を通じた中で、安曇節に関心がある人がわずかながら増え、安曇節の認知度も以前よりは高まってきており、一定の活動の成果は得られたと思う。来年度は今年度の活動に加えて、「安曇節カルタ」の活用を考え、市内の福祉施設や諸団体を訪問して、安曇節カルタを拾う会（仮称）」等を開催し、安曇節の一層の普及を図る活動を進めていきたい。</p>		

今年度の活動



募集チラシ完成。6月16日より新作歌詞募集開始



8月2日 穂高納涼祭ステージ発表で三味線・尺八の伴奏で歌と踊りを披露（穂高神社）



9月16日 市民活動フェスタ・安曇節発表会に向けて練習開始（穂高会館にて）



9月28日 あづみの市民活動フェスタに出演（ANCアリーナ多目的広場にて）



10月5日新作安曇節発表会 会長が表彰状を入選者に授与する（国営公園にて）



新作安曇節を三味線・尺八の伴奏にのって唄と踊りで披露（国営公園内のあづみの学校玄関ロビー）



アトラクション：現代風安曇節を観客も入っておどる。舞踏家の岡佐和香さん（白の和服の女性）が新作の踊りをつくってくださいました。



穂高文化祭



市役所東ロビー



国営アルプスあづみの公園堀金穂高地区

新作歌詞を色紙にして穂高文化祭・市役所・国営公園に展示

事業名 臼井吉見と安曇野に生きる

団 体 名	臼井吉見文学館友の会		
代 表 者 名	佐々木重昭	構成人数	151人
活動拠点所在地	臼井吉見文学館 安曇野市堀金烏川2701		
事業実施総額	248,477円	補助金額	181,000円
主な補助金使途	講師謝礼、チラシ・会報印刷費、インク、コピー用紙、会場費、通信費		
事業実施日・期間	毎月1回開催の定例学習会7団体、公開座談会（9月7日）		
事業概要・成果	<p>1 事業の目的等</p> <p>① 臼井吉見が大切にしてきた多様な考えを持つ人との対話することの意味や価値について、臼井が残した記録をもとに学び合う。</p> <p>② 現代社会が持つ同調性や排他性に対する課題意識を持つ。</p> <p>③ ひとつのテーマについて異世代の人と情報共有をすることにより、自身の知見を深める。</p> <p>2 事業の具体的実施内容</p> <p>① 学習会（・小説『安曇野』を読む会 ・筑摩書房草創期を語る ・『どんぐりのへた』を読む ・『堀金村誌』を読む ・安曇野のひとびとを語る ・臼井吉見関連本を読む ・臼井吉見と学ぶ）を毎月1回開催する。</p> <p>② 公開座談会（9月7日）を開催する。</p> <p>③ 学生と学び合う機会を設定する。</p> <p>④ 友の会だより「常念とれんげ」を年3回発行することにより、市民に、友の会の取組を広報する。</p> <p>3 成果</p> <p>① 7つの学習会を毎月開催した。共通テーマのもとに、多様な考え方を持っている人との対話の機会を設定し、参加者の知見を深めることができた。</p> <p>② 学習会「臼井吉見と学ぶ会」に高校生1名（県ヶ丘高校3年）の参加を得て、異世代での意見交換をすることができた。</p> <p>③ 公開座談会に参加者80名から満足度91.4%の評価を得た。松本市や池田町から30人を超す参加者を得た。安曇野市の取組を市外に広げることができた。</p>		
今後の展開	<p>・小説『安曇野』に登場する人物を通して、近現代の日本の歩みを理解することにつながっている。今後、登場人物の中から木下尚江や青柳優に焦点を当てながら学習会や講演会を実施したい。</p> <p>・『臼井吉見集』全5巻や小説『安曇野』を通しての名言集の発行を希望する声がある。「『安曇野』を読む会」の活動に取り入れたい。</p> <p>・学習会への参加者を待つというスタンスでなく、広報物を作成したり、学校教育と協働したりする取組を展開したい。</p>		

今年の活動

○学習会

- ・『安曇野』を読む会（第1日曜日）
- ・筑摩書房草創期を語る会（第1木曜日）
- ・『どんぐりのへた』を読む会（10日）
- ・『堀金村誌』を読む会（第3木曜日）
- ・臼井吉見と学ぶ会（第2日曜日）
- ・安曇野のひとびとを語る会（第3日曜日）
- ・臼井吉見関連本を読む会（第4木曜日）

○臼井吉見文学館友の会会報「常念とれんげ」の発行

○公開座談会

「難解小説『安曇野』を読む楽しさ」

<基調講演>

「『安曇野』を読破するいくつかのコツ」

（斎藤美奈子さん：文芸評論家）

- ・9月7日（日）
- 13:30～15:30
- ・堀金公民館講堂
- ・80人の参加
- ・満足度：91.4%



パネルディスカッション

1 開催地：安曇野市市民センター
 2 開催日時：令和7年3月2日（日）13:30～15:30
 3 開催場所：堀金公民館講堂
 4 参加費：無料
 5 申込方法：先着順
 6 申込先：安曇野市市民センター
 7 申込期間：令和7年2月10日（月）～2月27日（金）

「安曇野に生きて」大川の一滴

安曇野市市民センター 堀金公民館

○本年度開設の『安曇野』を読む会」です。毎回10人を超す参加を得て、毎回1章ごとに読み合わせを行いました。

参加記録を整理してレポートにまとめる人もいるなど、意欲的な研修機会となっています。

市民に学習会の周知したいということから「安曇野活躍カレッジ2025」（昨年度までの朗人大学）を利用して呼びかけを行いました。

○友の会の取組を紹介したり、小説『安曇野』に関連する情報を市民に提供したりしているのが臼井吉見文学館友の会だより「常念とれんげ」です。

○「難解小説『安曇野』を読む楽しさ」と題した公開座談会を開催しました。基



調講演をお願いした斎藤美奈子氏は、復刊『安曇野』の販売日である令和7年3月2日に記念講演をお願いした文芸評論家です。

パネルディスカッションでは、安曇野市内外で『安曇野』を読む会」

を主催している4人をパネラーとして座談会を開催しました。参加者の声を紹介します。

・我が家には、筑摩書房『安曇野』初版5巻が、夫持参、私持参2セットあります。満足に読んでありません。今日読破には、仲間が必要と教えていただきました。とりあえず夫と仲間になりましょう。

・斎藤美奈子さんの大ファンです。今日の講演、うれしかったです。安曇野への移住6年目です。今日の座談会に背中を押されて読んでみようと思います。

事業名 安曇野歴史サロン

団体名	安曇誕生の系譜を探る会																																																																																																										
代表者名	百瀬新治	構成人数	69名																																																																																																								
活動拠点所在地	市内公民館																																																																																																										
事業実施総額	187,200円	補助金額	106,000円																																																																																																								
主な補助金使途	講師謝礼 資料印刷 材料費																																																																																																										
事業実施日・期間	4月12日/5月18日/6月22日/7月12日/8月17日/9月27日/ 10月18日/11月22日/12月20日/ 3月実施日未定																																																																																																										
事業概要・成果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="8">令和7年度 安曇野歴史サロン 受講者集計表</th> </tr> <tr> <th>月日</th> <th>タイトル</th> <th>講師</th> <th>会場</th> <th>参加者計</th> <th>会員</th> <th>再来</th> <th>初参加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月12日</td> <td>仁科氏の盛衰-2</td> <td>荒井今朝一</td> <td>豊科公民館</td> <td>52</td> <td>29</td> <td>19</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>5月18日</td> <td>アヅミノ先祖語り戦国編上</td> <td>百瀬新治</td> <td>堀金公民館</td> <td>41</td> <td>21</td> <td>12</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>6月22日</td> <td>アヅミノ先祖語り戦国編上</td> <td>百瀬新治</td> <td>豊科公民館</td> <td>39</td> <td>22</td> <td>12</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>7月12日</td> <td>縄文土器作り 製作</td> <td>山下泰永</td> <td>東平庵</td> <td>20</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>8月17日</td> <td>縄文土器作り 野焼き</td> <td>山下泰永</td> <td>東平庵</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>9月27日</td> <td>仁科氏の盛衰-3</td> <td>荒井今朝一</td> <td>穂高会館</td> <td>48</td> <td>26</td> <td>12</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>10月18日</td> <td>ごりやくあります。</td> <td>原 明芳</td> <td>豊科公民館</td> <td>52</td> <td>29</td> <td>17</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>11月22日</td> <td>謎の善光寺仏師・妙海を追う</td> <td>小林寿英</td> <td>穂高会館</td> <td>48</td> <td>28</td> <td>15</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>12月20日</td> <td>ウミのめぐみと信州</td> <td>巻山圭一</td> <td>堀金公民館</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>7</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>未定</td> <td>未定</td> <td>未定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>合計</td> <td>339</td> <td>187</td> <td>97</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>*テーマによって多少の差はあるものの、会員とほぼ同数の一般受講者の参加があり、リピーターも多く、歴史をテーマとした講演会として定着したと考えられる。</p>			令和7年度 安曇野歴史サロン 受講者集計表								月日	タイトル	講師	会場	参加者計	会員	再来	初参加	4月12日	仁科氏の盛衰-2	荒井今朝一	豊科公民館	52	29	19	4	5月18日	アヅミノ先祖語り戦国編上	百瀬新治	堀金公民館	41	21	12	8	6月22日	アヅミノ先祖語り戦国編上	百瀬新治	豊科公民館	39	22	12	5	7月12日	縄文土器作り 製作	山下泰永	東平庵	20	5	0	15	8月17日	縄文土器作り 野焼き	山下泰永	東平庵	9	5	3	1	9月27日	仁科氏の盛衰-3	荒井今朝一	穂高会館	48	26	12	10	10月18日	ごりやくあります。	原 明芳	豊科公民館	52	29	17	6	11月22日	謎の善光寺仏師・妙海を追う	小林寿英	穂高会館	48	28	15	5	12月20日	ウミのめぐみと信州	巻山圭一	堀金公民館	30	22	7	1	3月	未定	未定	未定								合計	339	187	97	55
令和7年度 安曇野歴史サロン 受講者集計表																																																																																																											
月日	タイトル	講師	会場	参加者計	会員	再来	初参加																																																																																																				
4月12日	仁科氏の盛衰-2	荒井今朝一	豊科公民館	52	29	19	4																																																																																																				
5月18日	アヅミノ先祖語り戦国編上	百瀬新治	堀金公民館	41	21	12	8																																																																																																				
6月22日	アヅミノ先祖語り戦国編上	百瀬新治	豊科公民館	39	22	12	5																																																																																																				
7月12日	縄文土器作り 製作	山下泰永	東平庵	20	5	0	15																																																																																																				
8月17日	縄文土器作り 野焼き	山下泰永	東平庵	9	5	3	1																																																																																																				
9月27日	仁科氏の盛衰-3	荒井今朝一	穂高会館	48	26	12	10																																																																																																				
10月18日	ごりやくあります。	原 明芳	豊科公民館	52	29	17	6																																																																																																				
11月22日	謎の善光寺仏師・妙海を追う	小林寿英	穂高会館	48	28	15	5																																																																																																				
12月20日	ウミのめぐみと信州	巻山圭一	堀金公民館	30	22	7	1																																																																																																				
3月	未定	未定	未定																																																																																																								
			合計	339	187	97	55																																																																																																				
今後の展開	<p>*今回初めて実施した「縄文土器づくり」は若年層の歴史への関心を喚起するに有効な事業であることが確認できた。今後も他団体との連携によりさらに前進させたい。</p> <p>*一般市民に関心を抱いてもらえるような、より幅広いテーマと講師を起用することで幅広い市民の参加を獲得したい。</p> <p>*参加者に向けて講演をフォローアップする勉強会を実施したい。</p>																																																																																																										

事業名 いのち育む田んぼ暮らしをはじめよう！！

団体名	Three tiny seeds		
代表者名	小島 千奈都	構成人数	4人（会員）2人（休会）
活動拠点所在地	安曇野市穂高柏原 田んぼ		
事業実施総額	425,021円	補助金額	300,000円
主な補助金使途	謝礼、施設利用料、備品購入、燃料費等		
事業実施日・期間	令和7年4月1日～令和8年1月		
事業概要・成果	<p>目的) 持続可能な暮らしを通して地域の風土、自然環境を守り育み、美しい安曇野の自然環境と農村文化をこどもたちの未来につなぐ。</p> <p>◇成果◇</p> <p>・「農的暮らしのコミュニティ田んぼ」年間通した環境再生型稲作の実践と交流会を実施。</p> <p>こどもや子育て世帯も参加しやすいコミュニティベースでの自然栽培の稲作を通し、文化継承と環境保全について学び実施した。また耕作放棄地をどう再生していくか、自然栽培の稲作を通して学びと体験の実践拠点として活動を行った。</p> <p>【主な作業】・種まき・育苗・荒起こし・田植え・除草、畔草刈り適宜・稲刈り、はげかけ・脱穀・秋起こし</p> <p>田植え6月15日：会員参加：大人4人、こども5人／体験参加：大人3人、こども6人 稲刈り10月5, 6日：会員参加：大人4人、こども6人／体験参加：大人1人、こども1人 脱穀 10月25日：会員：大人4人、こども3人</p> <p>【イベント】</p> <p>夏休み生き物観察会：7月27日 会員：1名、こども1人／体験参加：10人、（安曇野市9名、松本市1名）こども9人</p> <p>収穫感謝祭：12月14日（日）ビオパークにてZENZENクラブと共同開催 出店：お餅つきブースと味噌汁振る舞い。参加者200名。</p> <p>事業2年目の新たなチャレンジ</p> <p>① 体験コース増設</p> <p>昨年の振り返りから、今年度は年間通して今後自立にむけ学びたいという活動希望者が4名増えた。そのため体験コースと学びあいコースと選択肢を増やし、いずれ自分の地域で環境に配慮した稲作の取り組みをしていく方が増えるよう、体験から実践へとつないでいくモデルケースの仕</p>		



	<p>組みにもチャレンジした。学びあいコースは会員制のまま継続し6名。体験コースは門戸をひろげ、会員制ではなくどなたでも来て、見て、触れて、知ってもらうため、稲作作業への参加費は無料、自由参加制とした。その結果、田植え、朝の除草活動、稲刈りなど単発参加体験しやすくなった。</p> <p>② 自然農法での育苗実践</p> <p>昨年指導いただいた育苗を、今年は自分たちができる環境に配慮して形で自立して取り組んだ。畑苗代（乾田苗代）という自然農法を実施。また畑に好気性微生物、緑藻ミネラル、バイオ炭も混ぜ込み、もともとある自然の力を生かす形で無事稲を育てることができた。課題は寒冷地ならではの育苗初期の生育不良があり、保温の大切さを学んだ。</p> <p>③ 環境再生の取り組み</p> <p>今年度は、For EARTH 様よりメタンガス削減実験の実証圃場に選定されました。</p> <p>昨年の秋の耕起時に施した好気性微生物、緑藻ミネラル、バイオ炭が藁の分解を促進し、メタンガス発生を抑制されているかの調査研究に協力。2025 年はメタンガスの収集システムを構築して、引き続きメタンガス発生を抑制する農資材を散布し、2026 年にメタンガス発生量分析予定となり、土壌改良を指導いただいた。</p> <p>藁細工の会：開催中止 食養生講座：開催中止</p>
<p>今後の展開</p>	<p>今年の成果を生かし来年度も同様に多くの市民が稲作事業に参加できるようにしていく。田んぼのある暮らしを通して自然環境へ意識を高めていくきっかけとしたい。多くの地域の方々に農的暮らしの魅力と環境再生への意識を浸透させていきたい。来年はメタンガス抑制にどのくらい貢献できたかも結果をみるのが楽しみである。</p>

事業名 野良仕事のつどい ノラノワ

団体名	ノラノワ		
代表者名	内田晴香	構成人数	5人
活動拠点所在地	長野県安曇野市穂高牧		
事業実施総額	392,519円	補助金額	196,000円
主な補助金使途	謝礼、農機具消耗品、チラシ印刷、食材、材料、物品購入		
事業実施日・期間	2025年4月～2026年3月（計28回）		
事業概要・成果	<p>本事業では、耕作されなくなった田畑や手入れの途絶えた庭・里山をフィールドに、「野良仕事の集い」を年間全25回（+レポート提出後3回予定）実施しました。参加者は総勢186名・新規38名（1月末時点）で、安曇野市内に限らず、関東・関西・海外からも足を運んでいただき、年齢は10代から70代までと幅広く、子どもも参加しました。</p> <p>活動内容は、田植え・稲刈り・草刈り・伐倒・剪定といった野良仕事に加え、渋柿塗料づくりや草木染め、竹の工作など、自然素材を暮らしに生かす体験へも広がりました。年間を通じて、田畑5か所（計約7反）と400坪の庭の維持管理を行い、耕作放棄地の活用と景観保全に寄与しました。</p> <p>成果としては、体験参加にとどまらず、自ら関わり続ける人材の芽が見えてきています。次年度米づくりに取り組む方が5名現れ、そのうち1名は田んぼとの縁が決まりました。さらに、地域に多く残る柿の木について「里親的に関わりたい」と希望する方が5名おり、放置果樹の保全に向けた可能性が生まれています。</p> <p>「ひとりでは難しいが農的な暮らしを生活に取り入れたい」という方にとっては、その入口となり得る場である手ごたえがありました</p>		
今後の展開	<p>今年度は、土地や里山に関わる入口づくりを中心に行いました。今後は、一步踏み込んで継続的に関わる人材の育成や仕組みづくりを進めていきます。</p> <p>米づくりでは、意欲ある参加者と共に、田植えや稲刈りに限らず年間作業に触れられる環境を整えます。</p> <p>また、地域に多い柿の木を管理・収穫する「里親的人材」の創出に向け、地主とのマッチングや剪定講習など基礎技術を学べる場を整備したいと考えています。</p> <p>米づくり、田畑の維持、森林整備などの野良仕事を継続するほか、衣食住のDIYや伐った木を活用した工作など、楽しみながら土地に関わる入口づくりも展開します。</p>		

ノラノワの日

田んぼ・畑にて計 16 回（+レポート提出後 1 回予定）活動を実施。田んぼでは無農薬・無肥料・ハゼ掛けにて希少品種「亀の尾」を栽培。畑では菜の花の種まき、玉ねぎの定植、堆肥づくりなど、季節ごとの仕事を行いました。



小さな森の整備会

活動拠点の庭にある林にて計 6 回（+レポート提出後 2 回予定）開催し、手鋸による伐採のほか、なめこ植菌、薪棚づくり、竹工作、柿渋づくり、ヒノキ染めなど、子どもたちも交えて衣食住を手作りする体験をしました。



講習会 草刈り講習会/特殊伐採見学講習会/味噌作り講習会

農業・林業・食の専門家をお招きして、野良仕事や暮らしづくりにつながる講習会を行いました。



事業名 「廃線敷と潮沢の歴史と文化を伝える」

団体名	ケヤキの道		
代表者名	隠岐俊一	構成人数	55人
活動拠点所在地	潮沢公民館		
事業実施総額	148,270円	補助金額	111,000円
主な補助金使途	冊子印刷代金、講師謝礼金		
事業実施日・期間	令和7年4月～令和8年3月		
事業概要・成果	<p>1 事業の目的</p> <p>旧国鉄篠ノ井線廃線の整備と景観維持活動を開始してから20年目を迎えた。活動を振り返り今後も活動を継続していくために記録を残す。また、過疎化、高齢化が進む潮沢地域の歴史と文化、廃線敷の鉄道遺産を次世代へ継承していく。</p> <p>2 事業概要</p> <p>①ケヤキの道活動の記録を冊子にまとめる「ケヤキの道20年の歩み」 4月から1月まで7回の編集委員会を開き内容の検討を行った。</p> <p>②講演会の開催7月21日テーマ「篠ノ井線廃線敷と鉄道遺産」26名参加、会員以外の20代の人も参加してくれた。</p> <p>③松本大学地域づくり考房「ゆめ」の学生らと廃線敷のフィールドワークとグループディスカッションを行った。10月11日25名参加</p> <p>3 成果</p> <p>①会の関係者から原稿、資料、写真の提供を受け、冊子にまとめ発刊 令和8年3月発刊</p> <p>②寄せられた資料、写真等から旧篠ノ井線が走っていた当時の潮沢の歴史と文化の一端を知ることができた。</p> <p>③一例として廃線敷沿線の集落に百万遍の行事が今でも継承されていることがわかった。毎年3月春分の日実施</p> <p>④松本大学地域づくり考房「ゆめ」ゼミ学生らの廃線敷の未来構想について聞く機会が得られ、今後も交流を続けていくことになった。</p>		
今後の展開	<p>・冊子作成は一区切りとするが廃線敷の整備活動は次世代へと継続していく。</p> <p>・市と協働して鉄道遺産等の案内看板の設置をして廃線敷の魅力を高めていく。案内看板は令和7年度中に一部設置</p> <p>・松本大学生から提案があった廃線敷のSNSでの情報発信も今後は考えていきたい。</p>		

①編集委員会活動内容



4月13日・理事会にて活動記録の冊子作成についての打合せ 13人
 ・編集委員長、会計、編集委員の決定
 ・発刊までの主な流れの説明

第1回	4月27日	・冊子の内容 A4判 20ページ	11人
第2回	6月1日	・原稿依頼：区長、歴代会長、明科支所長 ・文字サイズ：12pt、書体：明朝体	9人
第3回	7月21日	・作成状況の経過報告	7人
第4回	8月31日	・冊子の割り付け確認	7人
第5回	10月5日	・表題決定：ケヤキの道 20年の歩み ・原稿確認：歴代会長分 ・表紙、裏表紙：決定	9人
第6回	11月23日	最終確認	7人
第7回	1月12日	見本完成	10人

3月に活動記録の冊子を発刊します。

②講演会 7月21日テーマ
「篠ノ井線廃線敷と
鉄道遺産」



26人参加
 潮沢の歴史にも
 ふれていただき
 参加者の皆さん
 興味深く聞かれ
 ました。

③松本大学地域づくり考房
「ゆめ」のゼミ学生らとフ
ィールドワーク、グルー
プディスカッション 10月11日



25人参加
 学生からは廃線敷の利活用について多くの提言が寄せられました。

事業名 一から始める未来の里山づくり さとやま楽校・里山再生の教室

団体名	あづみの樹楽会		
代表者名	渡辺晃	構成人数	23人
活動拠点所在地	安曇野市内・アルプスあづみの公園（堀金・穂高）		
事業実施総額	400,190円	補助金額	300,000円
主な補助金使途	活動保険代・ガソリンオイル・備品購入など。		
事業実施日・期間	2025年5月1日～2026年3月25日		
事業概要・成果	<p>1. 活動状況は、会員23名。2025年5月より2025年12月まで、活動日15日、延べ人数204名でした。</p> <p>2. 事業概要・成果</p> <p>本活動を含め、当会の活動が評価され、長野県ふるさとの森林づくり賞の「森林づくり推進の部 長野県林業普及会長賞」を受賞しました。</p> <p>里山再生の教室の内容</p> <p>①里山再生の教室 5回開催</p> <p>②クラフト教室 3回開催</p> <p>③伐倒講習会 1回開催</p> <p>④地域との交流では、第5回の講義を安曇野市の後援を受け、周辺地域の区長とさとふる。サポーターに参加を呼びかけました。</p> <p>④鳥獣被害対策においては、クマ対策として、公園内のアルプスあづみの公園烏川両岸の緩衝帯伐採活動を実施しています。</p> <p>⑤教室の内容と活動の写真は、次頁に記載します。</p>		
今後の展開	<p>今年度に続き、26年度は3年目のさとやま楽校を継続します。</p> <p>希少植物の保護を進めながら、未来の里山づくりの方向性を考えていきます。里山での体験場所の提供として、やま保育のフィールド・小中学校の活動の場所となるよう、整備を進めていきたいと考えています。</p>		

里山再生の教室の内容

- 第1回 植生調査と観察
- 第2回 森林の整備を考
える
- 第3回 栗の木の伐採と
クリ拾い
ヒノキ林の間伐
- 第4回 ヒノキ林の間伐

クラフト教室

公園のクルミの木を除伐。
その枝や幹の樹皮を使い、
花器・アクセサリ造りを
体験。

クルミの生木を用いて、
スプーンづくりを体験。

伐倒講習会

学校内のヒノキ林で、安全
講習の後、伐倒の実習

里山再生の教室第5回

セミナー「野生生物との
共生・共存は、どうあるべ
きか」と、クマ対策の緩衝
帯造りのフィールド見学

活動への評価

長野県ふるさとの森林づく
り賞を受賞しました。
県内で12団体が、受賞しま
した。

林内の植物の説明と観察



ヒノキ間伐作業



クルミの樹皮を使った花器づくり



里山の生木のスプーンづくり



事前安全講義



公園内のヒノキ伐倒・玉切り実習



セミナー後の参加者



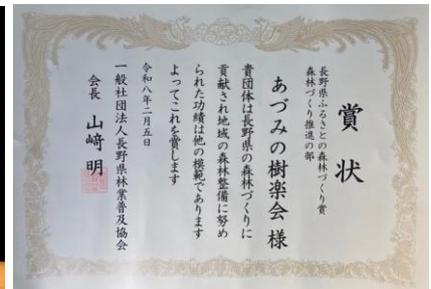
烏川のクマ対策緩衝帯の見学



表彰式



表彰状



事業名 「あづみの森であそび隊」 自然体験および環境教育推進事業

団体名	あづみの森であそび隊		
代表者名	鈴木翔子	構成人数	17名
活動拠点所在地	豊科および三郷室山		
事業実施総額	328,000円	補助金額	246,000円
主な補助金使途	印刷製本費：イベント周知のためのチラシ作成、SNS 広告等 消耗品費： イベントで使用する調理器具・資材・工具 備品購入費： 焚火台、結束ロープ、薪ストーブ		
事業実施日・期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
事業概要・成果	<p>安曇野の豊かな自然を舞台に、子どもたちの自主性を育み、親子が共に学ぶ場を提供しました。通年通して構成員以外に168名のイベント参加がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● こどもの居場所づくり：夏の「竹の水鉄砲遊び」や秋の「焚き火」を中心とした冒険プレーパークに、行ったり不登校の小学生が参加しました。自然の中での遊びを通じて心から楽しむ姿が見られ、多様な子どもの居場所としての役割を果たすことができました。 ● こどもの自主性を尊重した活動：秋の冒険プレーパークでは50名を超える参加者があり、竹の間伐から竹巻きパン作り、弓矢や笛の制作、ヒュッテでの遊びなどを行いました。大人が指示するのではなく、子どもたちの「やりたい」という意欲を尊重した結果、生き生きとした活動が展開されました。 		





- **親子の関係性向上：** 森の中で共に汗を流し、とくに大人が楽しむ姿を共有することで、家庭内とは異なる視点で親子が向き合う貴重な機会となり、関係性の向上につながりました。

- **地域コミュニティの交流：** 12月のクラフトワークでは、募集人数を大きく超える申込数となりました。森で集めた素材を使いオーナメントやリース作りを実施しました。活動後のカレー交流会も含め、地域コミュニティの温かな交流の場となりました。



今後の展開

令和7年度の成果を基盤に、以下の3点を重点的に進めます。

- **「3本の柱」の定期開催：** 「森のストーリーを知る親子体験」「冒険プレーパーク」「森の幸でクラフトワーク」を軸に、年間を通じたプログラムを定着させます。
- **活動拠点の整備（基地化）：** 室山を「基地」として整備し、より深く継続的に森づくりの場として、自然と関われる環境を整えます。
- **地域への広がり体制強化：** 地域の社会課題（放置里山林の利活用問題、建築廃材の利活用）の解決を見据えた運営体制の構築を目指します。

事業名 安曇野の農家さんを応援 伝統保存食☆料理教室

団体名	一般社団法人 笑顔の花		
代表者名	茅房 栄美	構成人数	15名
活動拠点所在地	長野県安曇野市豊科 4932 番地 13		
事業実施総額	300,000 円	補助金額	225,000 円
主な補助金使途	講師謝礼、食材費、需用費（チラシ制作）、委託料（Web 制作等）		
事業実施日・期間	7/27 2/28 3/24		
事業概要・成果	<p>農業で繋がる地域交流会（年度 1 回開催）報告</p> <p>□開催概要</p> <ul style="list-style-type: none"> • 7/27 信州安曇野フレンドファームさん農園・対象：障がいの有無に関わらず、地域の赤ちゃんから高齢者まで • 人数：30 名 • 内容：農業従事者と住民が地域の農業の課題と発展について意見交換する。 <p>—— 活動報告</p> <p>参加者は、収穫体験を通じて、農業への理解と感謝を深める機会を持ちました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 体験内容 • 旬の食材を皮ごと食べる体験 • 農家さんのお話を直接聞き、安曇野の農業現状や課題を学ぶ • 地域の食材の魅力を再確認 • 参加者の声 • 「美味しく、楽しく、嬉しい、感動の体験でした！」 • 「地域の農家さんの努力や思いを知れば知るほど応援したくなります」 • 「食べることや農業について学べる貴重な時間でした」 • 学び・気づき • 食べることの大切さを改めて実感 • 地元で育つ旬の食材が、私たちの健康と生活を支えていることを理解 • 地域交流を通じて、農家と住民のつながりが強まる <p>—— 今後の展望</p> <p>農業と住民のつながりを深め、地域住民が体験できる場の充実、地域の農業の魅力を広く発信し、地元農家の支援と活性化につなげる。</p> <p>—— 感謝の言葉</p> <p>フレンドファームさまのお陰で貴重な体験と学びの機会に感謝です。地域農業の大切さと食の楽しさを再認識できた 1 日となりました。</p>		

今後の展開

安曇野の農産物や野草を活用した保存食をテーマに発酵食や乾物を使った料理を中心に安全で優しい食材の料理体験会を二回開催します。

塩麴で作る無添加ソーセージごはん会

日時・場所：2月28日（土）10:00～13:00、豊科新田公民館

- 対象：年齢・性別・障がいの有無に関わらず、子連れ大歓迎
- 参加費：大人 1,500円 / 小学生～1,000円 / 食べられる子～6歳 500円
- 講師・担当：三児の里歩ママ（お一人様・パパ参加も歓迎）
- 交流会：12:00～おしゃべり交流会あり

メニュー

- 塩麴で作る無添加ソーセージ
- 野菜の付け合わせやひじきマリネなどの副菜
- ごはんやスープ

雑穀つぶつぶ料理教室 SOW

日時・場所 3/24（火）10:00～13:00、豊科新田公民館

- 対象：年齢・性別・障がいの有無に関わらず、子連れ大歓迎
- 参加費：大人 2,500円、小学生～1,000円、～6歳 500円
- 講師：かとう よしこ（つぶつぶ料理教室 SOW / 松川村）
- 定員：先着順

メニュー

- たかきびハンバーグ（ヒエクリーム添え）
- 蒸し野菜のひじきマリネ
- 根菜の味噌漬け
- 六穀ごはん、塩スープ、番茶
- ヒエ粉のつぶプル

事業名 きき Café

団体名	きき Café		
代表者名	中村貴子 中林嘉世子	構成人数	8名
活動拠点所在地	安曇野市明科光 243-1 堀金烏川 1746-6		
事業実施総額	191,400円	補助金額	139,000円
主な補助金使途	食材購入、備品購入など		
事業実施日・期間	2025年4月～2026年3月		
事業概要・成果	<p>現代社会や地域の問題としてある「孤独」・「孤食」・「孤立」に対して、「みんなでわいわい食べて豊かにつながる」を目標に世代を超えた交流の場を催しました。月1回 北村集会所（明科）・倉田地区公民館（堀金）で「きき Café」を開催しランチや喫茶を提供し、たわいもない話やゲームを通じて交流を深めました。また秘密厳守を徹底しながら安心して話せる居場所を作るとともに、本事業を通して地域での温かいつながりが持てる場を今年度も継続して提供しました。</p> <p>第1回 4月 北村集会所 大16人子8人 第2回 5月 北村集会所・倉田地区公民館 大20人子7人 第3回 6月 北村集会所・倉田地区公民館 大16人子10人 第4回 7月 倉田地区公民館 大18人子3人 第5回 8月 倉田地区公民館 大20人子3人 第6回 9月 倉田地区公民館 大19人子5人 第7回 10月 倉田地区公民館 大24人子19人 第8回 11月 北村集会所・倉田地区公民館 大14人子3人 第9回 12月 北村集会所 大15人子8人 第10回 1月 北村集会所・倉田地区公民館 大26人子11人 第11回 2月 予定 第12回 3月 予定</p>		
今後の展開	<p>引き続き開催地近隣の方々だけでなく、安曇野市全域の市民の方々にしてもらいホッとできる場を、そしてまた来たいと思ってもらえる場所を、良い関係を築き安心して過ごせる場所を作ります。今年度更なる物価高で来年度の費用をどうしていくべきかという課題はあるが子ども無料は継続します。参加された方の口コミでこの活動が知られ広がっていくような居場所作りを目指したい。</p>		

活動の様子

〈きき Café〉
月1回
第4土曜日開催

【開催時間】
11:30~13:30

【開催場所】
明科 北村集会所
堀金 倉田地区公民館

【参加費】
大人 300円
子ども 無料

Menu 4/26 ちらし寿司 すまし汁 青菜のお浸し プリン
5/24 カレー サラダ ゼリー
6/28 おにぎり 豚汁 プリン
7/12 冷やし中華 かき氷 炭酸ジュース
8/23 冷やしたぬきうどん すいか
9/27 シーフードカレー ゼリー
10/18 三食丼 すまし汁 りんご
11/22 炊き込みご飯 芋煮汁
12/21 シチュー 唐揚げ ポテトサラダ
フルーツポンチ
1/24 ハヤシライス 大根サラダ アイス

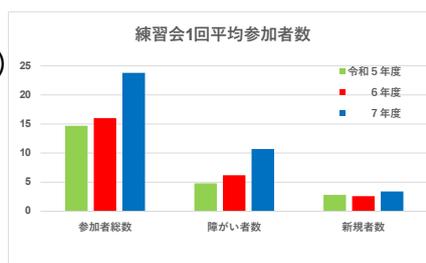
など

※食後はコーヒーやお茶、お菓子などを提供



事業名 ボッチャで安曇野をバリアフリー社会にしよう

団体名	つむぐ広場ココクル		
代表者名	松永広枝	構成人数	8人
活動拠点所在地	安曇野市穂高有明2626-2		
事業実施総額	164,138円	補助金額	105,000円
主な補助金使途	備品購入、講師謝礼、練習会・体験会材料費等		
事業実施日・期間	令和7年4月～令和8年3月		
事業概要・成果	<p>1, 事業概要</p> <p>目的：地域の障がい者、高齢者および地域の一般の方々がボッチャなどのユニバーサルスポーツを楽しむ場を提供することで、参加者の健康維持や社会参加への意識を高め、安曇野市をバリアフリーで多様性を尊重した社会にする一助とすることを目的とした。</p> <p>2, 事業の具体的な実施内容</p> <p>①練習会（月1回） 堀金公民館講堂または穂高会館講堂</p> <p>②スポーツ体験会（穂高公民館講堂）</p> <p>7月13日 ウォーキングサッカー体験</p> <p>12月14日 スポーツ吹き矢/モルック体験</p> <p>③交流練習会 10月26日</p> <p>④カフェ交流会（さいわいカフェ）</p> <p>9月7日、2月14日</p> <p>4, 事業成果</p> <p>スポーツ吹き矢用具、モルック用具を購入して活用した。</p> <p>参加者数、障がい者数、新規者数共に年々増加しており、多様な方が集まる地域の活動の場の一つとして定着しつつある。</p>		
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢や障がいのある方々が気軽に参加できる活動の場となってきており、多様な活動ができるよう他団体とも交流していきたい。 ・カフェ交流会を加え、交流を増やすことで多様な参加者の相互理解につながっている。情報交換の場、意見交換の場としていきたい。 ・運営費については、参加者から参加費や寄付をいただき、その中で運営していく予定である。 		



<本年度の活動>

①練習会 4月13日

5月10日、6月15日

7月13日、8月9日

9月15日、10月11日

11月9日、12月14日

1月31日、2月22日予定

3月22日予定

参加者平均 23.8人

うち障がい者 10.7人

新規参加者 3.4人

②スポーツ体験会

7月13日

ウォーキングサッカー体験

12月14日

スポーツ吹き矢体験

③交流練習試合

10月26日

明南小学校さんと交流試合

参加者28名

(障がい者 8名)

④カフェ交流会

9月7日

参加者16人

2月14日

参加者14人

⑤その他

・地域の交流試合参加を支援

・要望により出張で体験会を開催



練習会は2時間

・準備・準備体操

・投球練習・練習試合

・片づけ

の流れで実施し

参加者同士で協力して

進めている。



ウォーキングサッカー体験 参加者 24名 (障がい者 9名)

スポーツ吹き矢体験 参加者 23名 (障がい者 11名)

新しいスポーツの体験は参加者に好評で、興味が広がるきっかけになり、他の活動団体とのつながりにつながっている。



参加者同士の交流や活動情報を伝える場としてカフェ交流会を企画した。

参加者の活動への要望や、実施活動への思いを知るよい機会となり、温かい交流の時間となった。



・サンスポートまつもとボッチャ交流会 6月28日 2チーム参加

パラウエーブながの 中信地区大会 11月15日 3チーム参加

・1月21日 だれでもカフェ (デイホーム楓)

事業名 **だれでもカフェ**

団体名	NPO 法人アルウィズ		
代表者名	村岡 裕	構成人数	12 人
活動拠点所在地	長野県安曇野市三郷温 3399-3		
事業実施総額	246,928 円	補助金額	185,000 円
主な補助金使途	講師料、材料費、事務用品、備品購入		
事業実施日・期間	2025 年 7 月 9 日～2026 年 3 月 11 日		
事業概要・成果	<p>・本事業は、地域の誰もが安心して参加できる居場所づくりを目的として実施しました。月 1 回の開催を基本に、交流を中心とした活動を提供することで地域内のゆるやかな関係づくりを図っています。</p> <p>・開催を継続する中で、初参加の方の受け入れとともに、継続して参加される方が増え、地域の中で顔が見える関係づくりが進みました。また、年齢や立場を限定しない運営により、高齢者を中心に介護を担う家族や地域住民など、多様な参加者が同じ立場で時間を共有する機会が生まれ、世代をこえた交流が自然に行われるようになりました。これらの取り組みにより、地域内のつながりや安心感が広がり、地域の居場所として一定の成果を上げることができました。</p>		
今後の展開	<p>今後は、これまでの取り組みで得られた成果や課題を踏まえ、より多様な地域住民が参加しやすい居場所となるよう、以下の点に取り組んでいきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の広がりを目指し、地域包括支援センターや関係機関と連携しながら、活動内容や開催情報の周知方法を工夫します。 ・参加者同士の交流を深めるため、これまで好評であった交流カフェを基本としつつ、園芸療法や音楽など無理なく参加できるプログラムを継続して実施します。 ・運営体制については、無理のない規模と頻度を維持しながら、継続的に開催できる体制の確保に努めます。 		

<今年度の活動>

7月9日

歌声喫茶

参加人数 18人



8月6日

こども縁日

参加人数 28人



9月10日

夏の園芸療法

参加人数 18人



10月8日

やきいも大会

参加人数 25人



11月12日

だれでも音楽会

参加人数 21人



12月10日

冬の園芸療法

参加人数 20人



1月21日

ボッチャ体験会

参加人数 30人



2月11日

チョコ&甘酒のふるまい



3月11日

だれでもコンサート

